

# 熊本駅周辺地域エリア防災計画について

**平成28年（2016年）熊本地震** を経験し、これまでの防災意識や防災・減災対策の抜本的な見直しが必要となった



「熊本の新しい二つの顔、防減災プロジェクト会議」を立ちあげ、  
広域交通拠点である桜町・花畑地区、熊本駅周辺地区において防災・減災面の機能強化を図ることとした

## エリア防災計画

・・・地域の滞在者等（主に帰宅困難者）の安全確保と事業者の事業継続を図ることを目的に策定

熊本駅周辺は広域交通拠点であることから、災害時に**帰宅困難者**が多数発生することが想定される

そのため、**校区防災連絡会**に加え、**エリア防災計画**が必要

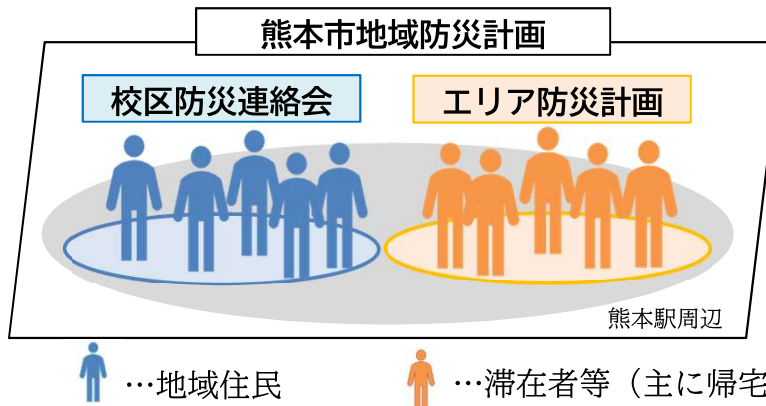
災害時に迅速な避難所の開設・運営ができるよう、小学校区ごとに設置し、防災体制を強化することを目的に設置  
 ⇒ 地域の特性に合わせた校区ごとの避難計画

### イメージ図



熊本駅周辺

地域の住民、滞在者（通学・通勤者）や  
 来訪者が混在している状況



※対象者に合わせた避難計画を  
 策定し、地域内の安全確保、  
 円滑な避難所の運営を図る

## ●計画の策定に向けて

### ◆ ソフト対策

駅周辺における防災・減災機能の強化を行うため、エリア防災計画を策定…①

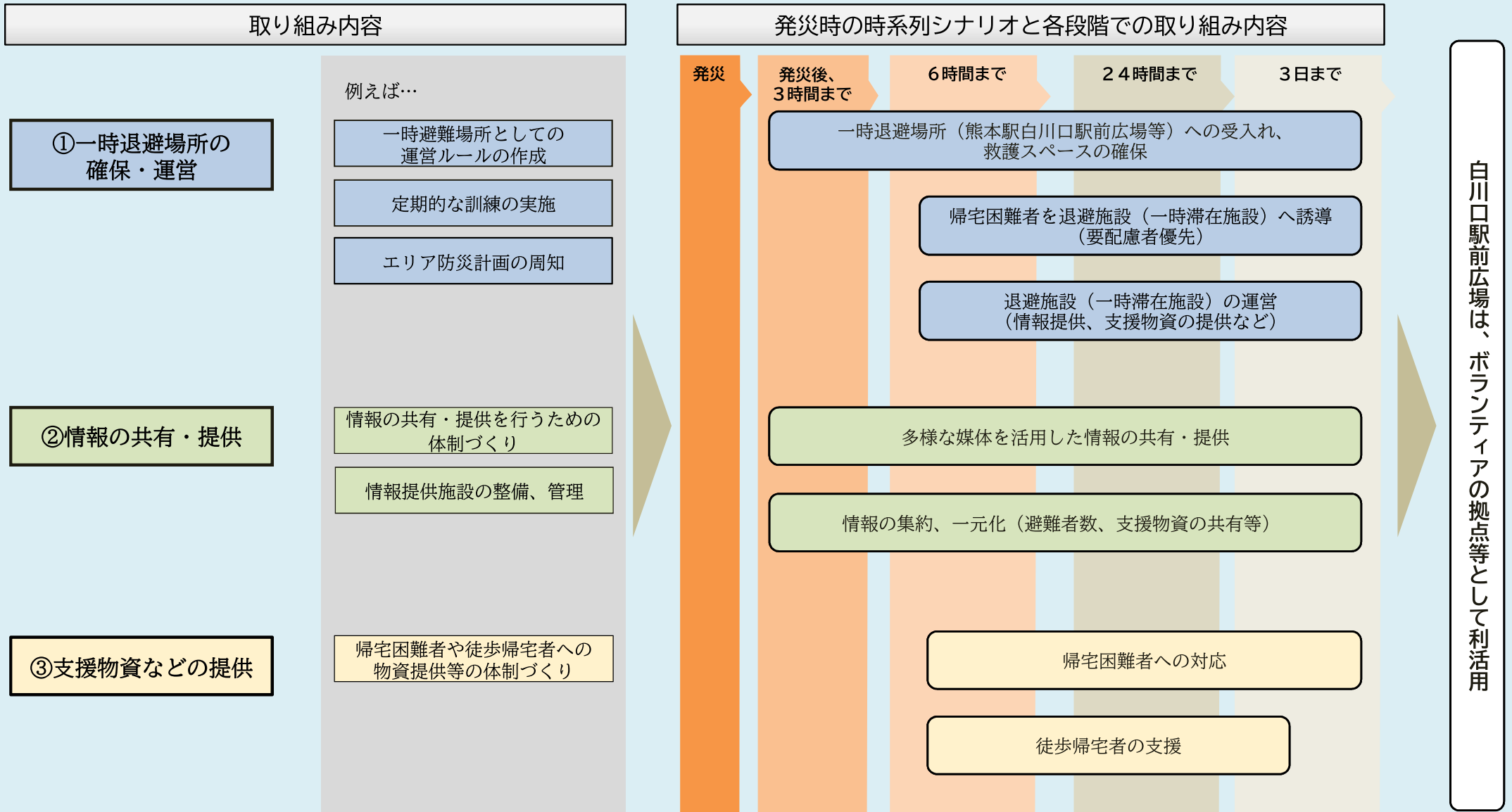
### ◆ ハード対策

熊本駅白川口駅前広場に防災施設を整備…②

スケジュール（案）	R1年度		R2年度	
	3月	4月	10月	3月
<b>エリア防災計画策定</b>	● 策定			
諸条件の整理				
周辺企業との協議・調整				
<b>駅広施設整備</b>	● 完了			

## ① エリア防災計画の策定

### ● 取り組み内容と発災から帰宅困難者解消までのシナリオ（案）



エリア防災計画の策定に向け、周辺企業と連携し、協議・調整を進めていく

## ②熊本駅白川口駅前広場における防災施設整備

発災時には・・・

オープンスペースや駅前広場内の施設を防災目的でも利活用

### オープンスペース

- ・発災直後は一時退避場所、
- その後はボランティアセンターの拠点として場面転換



熊本地震時のボランティアセンターの様子

### 公衆電話の設置

- ・災害時の防災通信用として利用



### Wi-Fi接続ポイントの設置

- ・災害時の情報伝達支援として利用



### 手押しポンプ

- ・災害時にトイレなどの生活用水として利用



### 貯水槽

- ・水景施設の貯水槽を災害時に生活用水として利用



### 非常用電源

- ・停電時にも利用できる電源を確保

駅前広場の共同管理者であるJR九州でも・・・

マンホールトイレや非常用電源など、防災施設の整備を検討中  
(JR九州と市で整備や運営に関する役割分担を実施)



マンホールトイレ

### トイレ

- ・一般トイレと多目的トイレを設置
- ・手押しポンプの水を利用し、災害時にも利用

